

2 原山本谷・横谷（ブナ地帯）施業指標林

古川営林署

設定の目的

伐採前に後継樹を発生・生育させることにより、更新を確実にしたうえで主伐を行う更新体系の確立に必要な諸条件を見出す。

場 所 岐阜県吉城郡河合村原山本谷国有林170林班に小班
横谷国有林137林班り小班
面 積 170林班に小班 2.19ha・137林班り小班 6.54ha

施業の概要等

○ 原山本谷指標林

60%伐採区（面積2.11ha）の伐採前の林況は、ブナ他L，林齢160年，材積140m³/ha，本数125本/ha，昭和59年10月伐採前地拵え（3m刈払2m残し，NaClO₃・140kg/ha，地上散布）

昭和62年ブナ・ナラ・その他L（径級26～50cm）本数18本/haを点状に保残し伐採（下種伐）

○ 横谷指標林

30%伐採区（面積1.89ha）の伐採前の林況は、ブナ他L・N，林齢135年，材積85m³/ha，本数153本/ha

昭和60年10月伐採前地拵え（3m刈払2m残し，NaClO₃・140kg/ha地上散布）

昭和60年ブナ，ナラ，その他L（径級20～74cm）本数72本/haを点状に保残し伐採（下種伐）

50%伐採区（面積2.95ha）の伐採前の林況は、ブナ他L・N，林齢135年，材積85m³/ha，本数153本/ha

昭和60年10月伐採前地拵え（3m刈払2m残し，NaClO₃・140kg/ha地上散布）

昭和60年ブナ，ナラ，その他L（径級20～70cm）本数60本/haを点状に保残し伐採（下種伐）

調査計画等

昭和63年に各伐採区に調査プロットを設定し平成元年～平成3年まで毎年稚樹調査を実施している。

地 況

標 高：1.120～1.290m・1.180～1.290m 林地傾斜：30°
土壌型：B_n・B_n(d) 方 位：W・S E

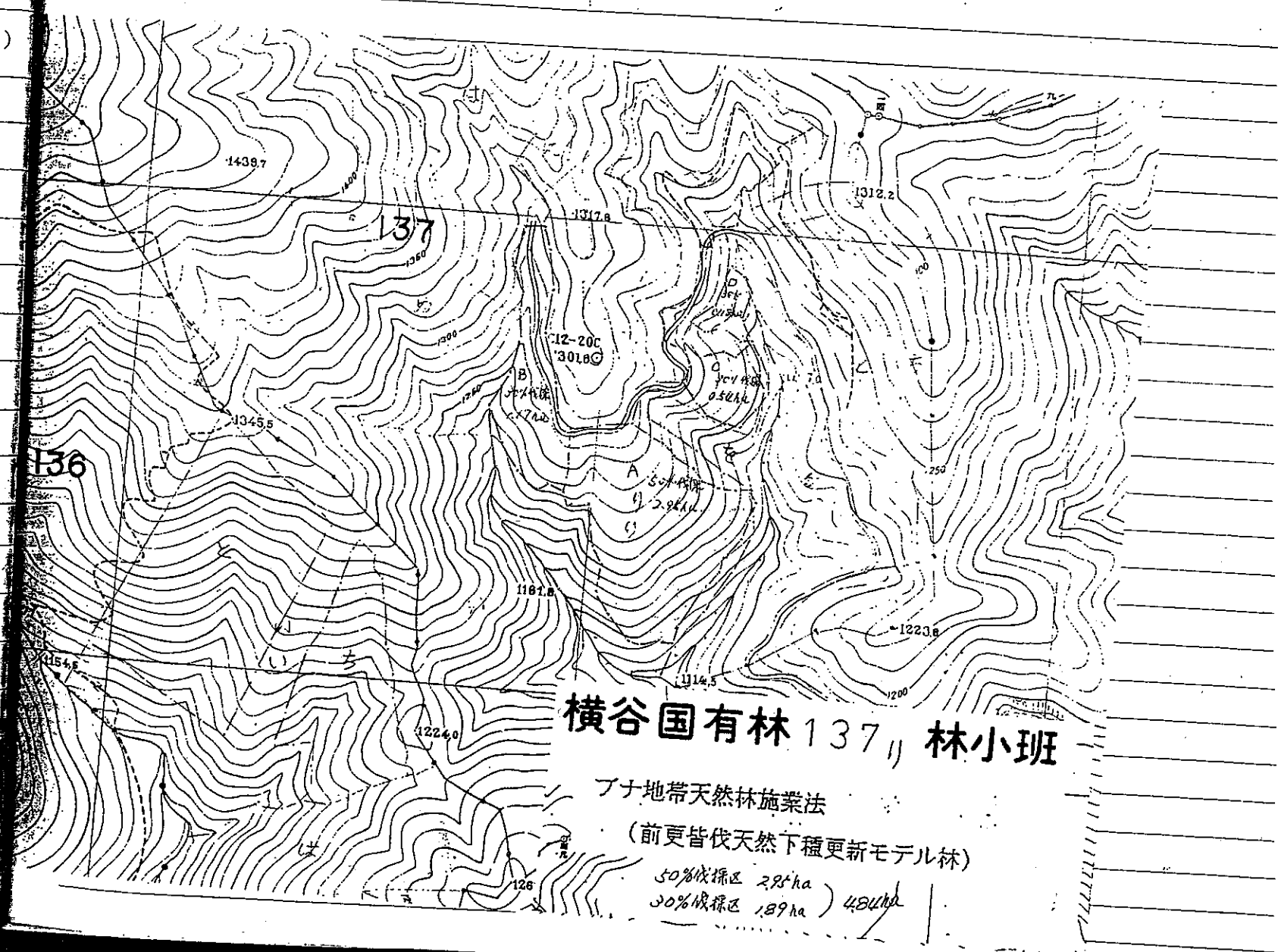
林 況

平成3年10月現在各伐採区とも稚樹はブナ，ナラ，カエデ類が多く生立し順調に生育している。ササは劣勢となってきている。

記 事 (調査時の現況説明)
今後の施業見通し等

稚樹はあまり見えない。

稚樹の発生は慎重

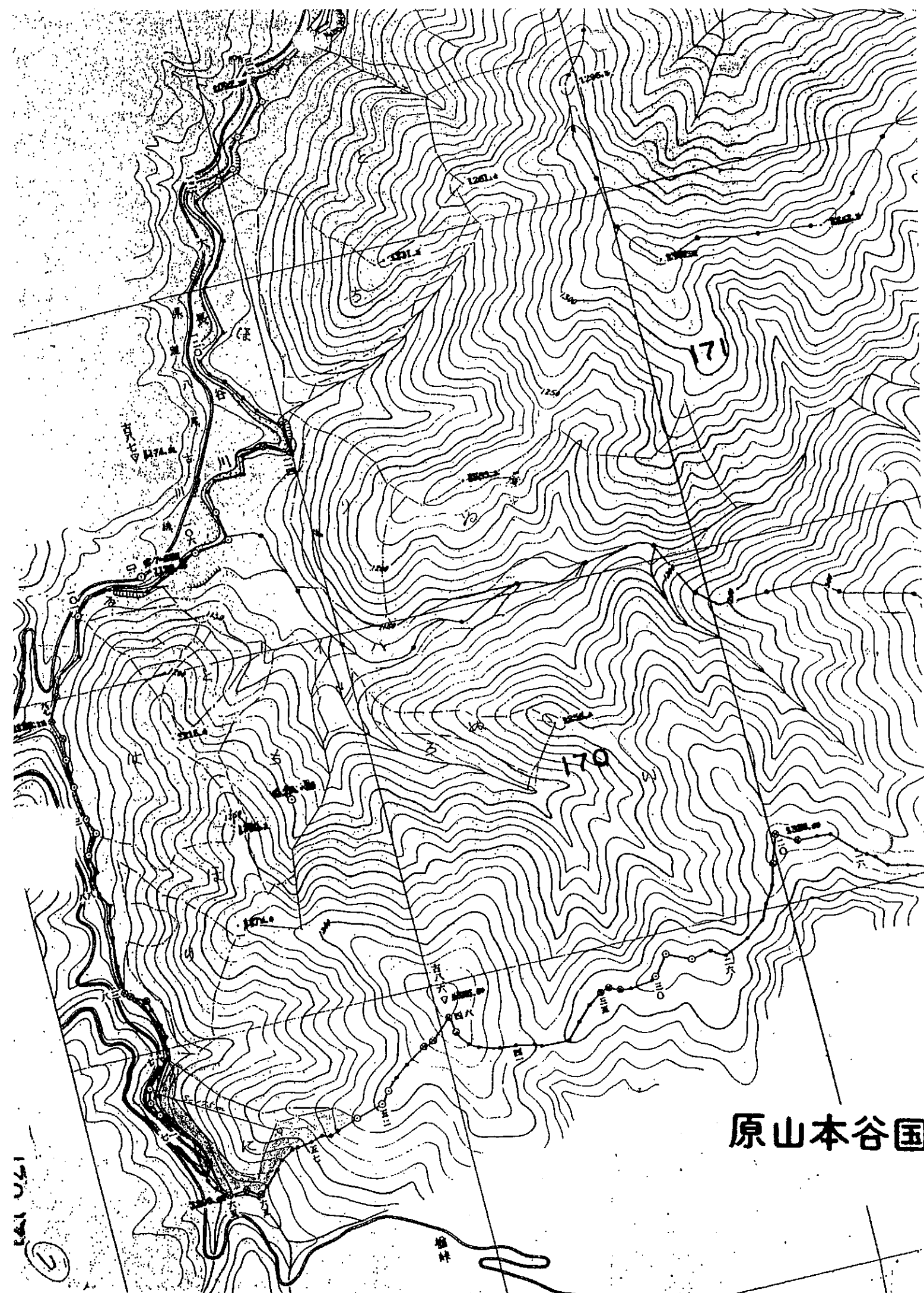


横谷国有林 137 林小班

丁十地帯天然林施業法

(前更皆伐天然下種更新モデル林)

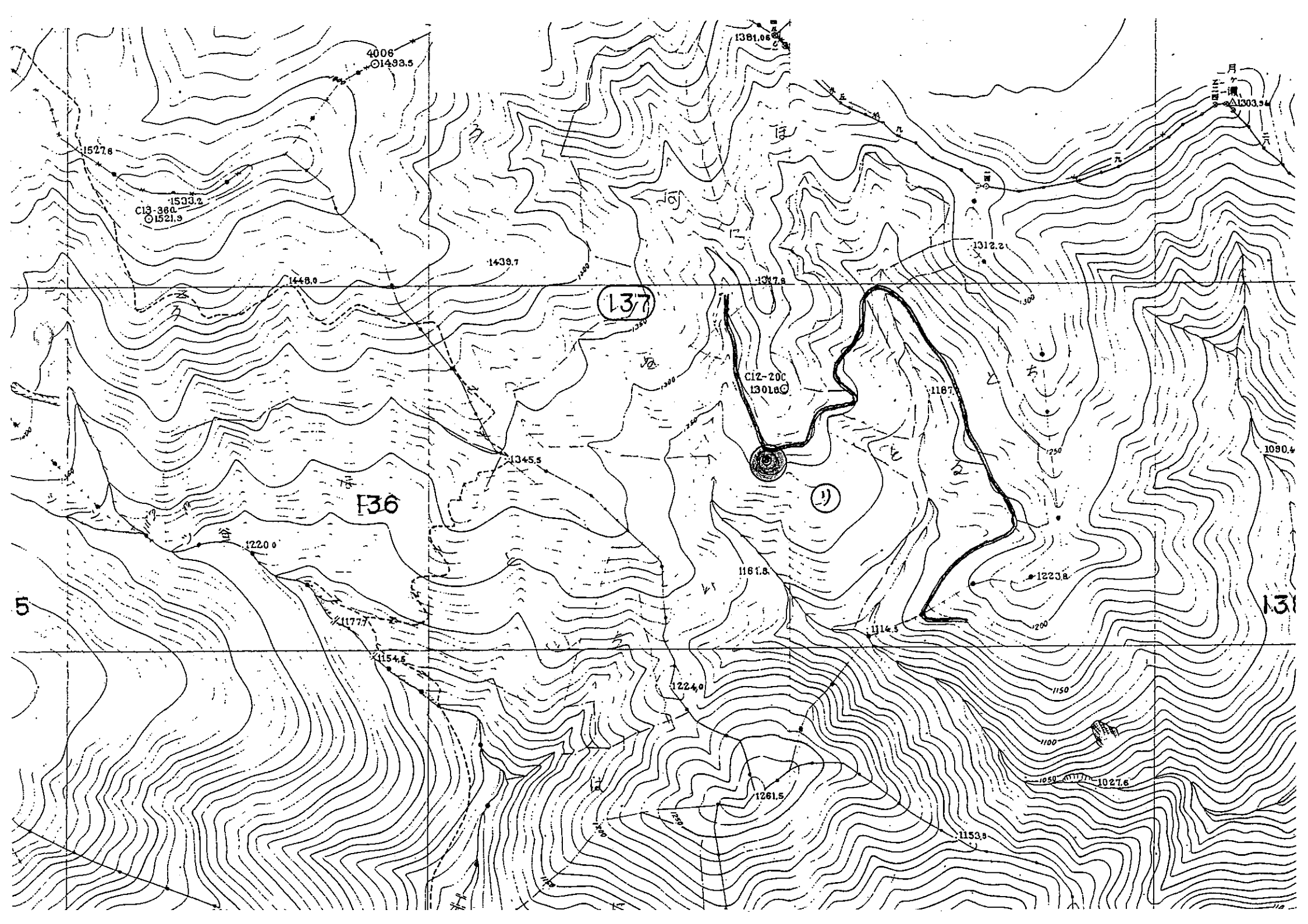
50%伐採区 2.98ha
30%伐採区 1.89ha) 4.87ha

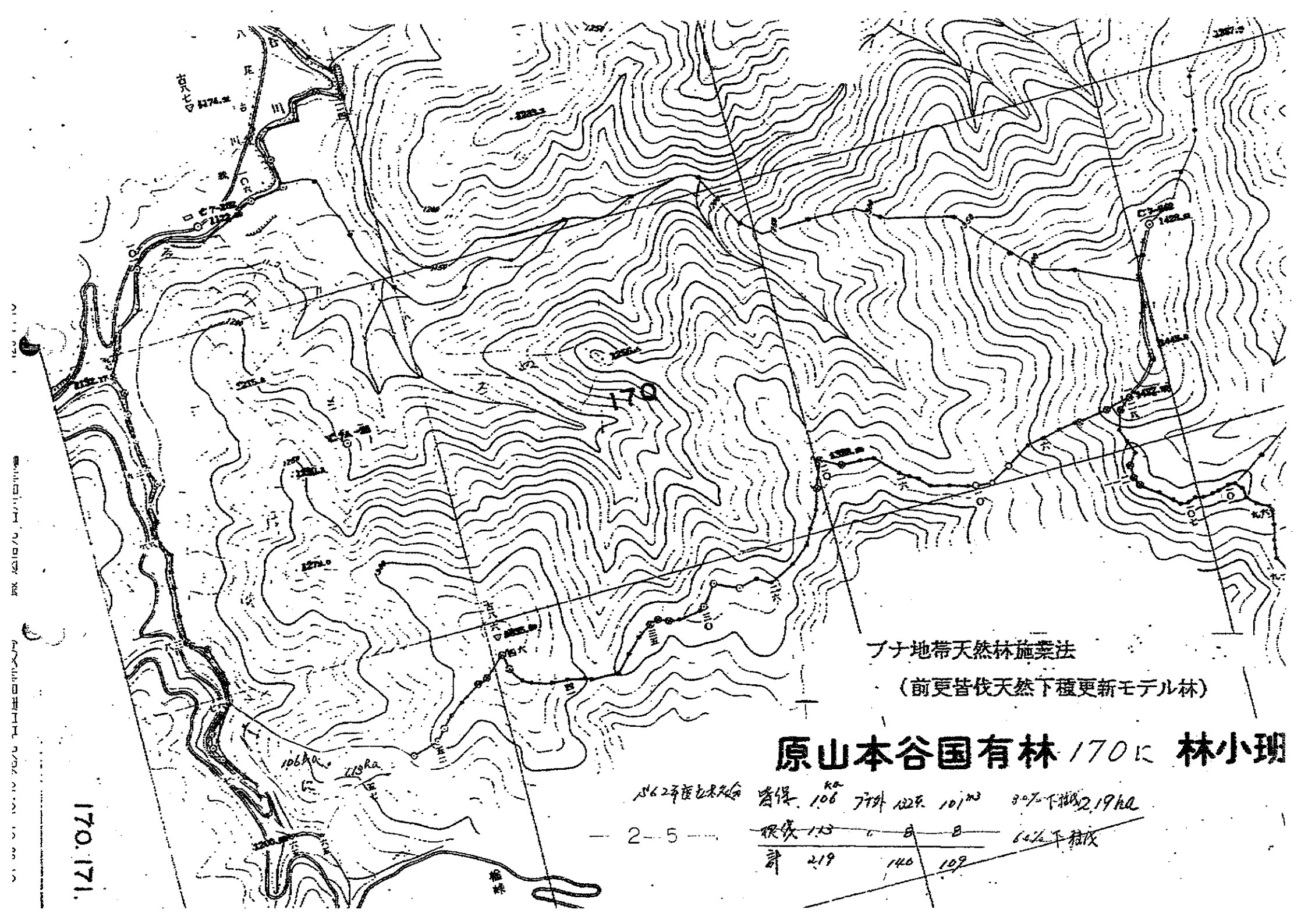


原山本谷国

5

橋





170.171.

ブナ地帯天然林施業法
 (前更皆伐天然下種更新モデル林)

原山本谷国有林 170区 林小班

1962年産出木材	皆伐	106	77外	1029	101 ²³	30%下種	219ha
	択伐	113		8	8	64%下種	
	計	219		140	109		

170

106ha 113ha

橋